

新積算システムの労務費調整について

新積算システムにおける労務費調整の方法は以下のとおりです。

一式当り内訳書

一式当り内訳書						単価使用年月	2023.10
						歩掛適用年月	2023.10
						労務調整係数	1.000-00000 0.0 0
内 1号	掘削	土砂					
名称・規格	条件	単位	数量	単価	金額	数量・金額増減	摘要
掘削 CB210100	土砂, オプション, 無し, 無し, 5,000m3 未満	m3	554	355	196,670		02-01-02
合計					196,670		

① 1.000 ② 00000 ③ 0.0 ④ 0

①	労務費調整係数 (R)	・「規制 (④)」の種類
②	所定時間外の超過時間 (J 1)	0 労務費調整係数・超過時間の指定による割増し
③	所定時間の内 20~6 時にかかる労働時間 (J 2)	1 基準日額一括割増し
④	規制 (右表)	6 労務費調整係数、超過時間の指定を無視
⑤	亜熱帯補正	7 基準日額一括割増有 入力必須の割増無
⑥	潮間割増率	A 除雪工事補正

入力データリスト (本01)

工事名	〇〇〇線〇〇〇工事	事業区分	道路新設・改築		
工事区分・工種・種別・細別・施工歩掛・規格	単位	数量・構成比 前回/今回 入力条件	単価 前回/今回	金額 前回/今回	摘要
道路改良 (0001)	式	1		13,212,731	
道路土工 (0002)	式	1		1,654,969	
掘削工 (0003)	式	1		196,670	工種 04:道路改良工事
掘削 (0004)	m3	550		196,670	オプション入力 第0001号内訳書 単位数量 1 m3 管理費区分 0 歩 2023.10 単 2023.10 単価地区 丹森市(沼津圏外) 労調係数 1.000 00-00 0 家賃割増 B地区 潮間割増 0% 係数ランク 1 週休2日補正 4週8休以上 CB210100 317.66 管理費区分 0 歩 2023.10 単 2023.10
掘削	m3	554	355	196,670	
J01 土質		土砂			

① 1.000 ② 00 ③ 00 ④ 0

【計算例】 R0803 交通誘導警備員Aを例とした場合

P : 基準日額 (労務単価) = 15,100 円

α : 構成比 (割増賃金比) = 0.843

P 1 : 所定時間内の実働時間 (所定時間から休憩時間を除いた時間)

P 2 : 時間外時間 (所定時間外の超過時間の内深夜時間を除いた実働時間)

P 3 : 深夜時間 (所定時間外の超過時間の内 20~5 時に間の実働時間)

P 1 = 8.0h、P 2 = 2.0h、P 3 = 0.0h とすると、

$$\begin{aligned} R &= (P 1 \times 1 + P 2 \times 1.25 + P 3 \times 1.5) \div (P 1 + P 2 + P 3) \\ &= (8.0 \times 1 + 2.0 \times 1.25 + 0 \times 1.5) \div (8.0 + 2.0 + 0) \\ &= 1.050 \text{ (小数点以下第 4 位四捨五入)} \end{aligned}$$

R : 労務費調整係数 (入力値)

J 1 : 所定時間外の超過時間 (入力値 : 時間)

J 2 : 所定時間の内 20~6 時にかかる労働時間 (入力値 : 時間)

T : 補正された労務単価 (円)

$$S = P - P \times \alpha$$

$$T = P \times \alpha \times R + S \left(J 2 \times 1.5 \div 8 + (8 - J 2) \div 8 \right) \times 8 \div (8 + J 1)$$

$$\begin{aligned} T &= 15,100 \times 0.843 \times 1.05 + (15,100 - 15,100 \times 0.843) \times 1 \times 8 \div (8 + 2) \\ &= 13,365. \dots + 1,896. \dots \\ &= 15,262. \dots \\ &\approx 15,260 \text{ 円 (四捨五入により 10 円単位)} \end{aligned}$$

この場合、積算システムの労務調整係数では「1.050-20000 0.0 0」と表示される。